関ヶ原の戦と三重の城郭

令和４年11月

三重県埋蔵文化財センター　竹田憲治

関ヶ原の戦

慶長五年（1600）九月十五日　美濃国関ヶ原にて徳川家康方（東軍）と石田三成方（西軍）が合戦
東軍が勝利した「天下分け目の合戦」

戦い前後の三重県の様子はどうであったか？
その後、三重県の様子はどのように変わったのか？

前哨戦の開始

慶長３年（1598）８月18日　豊臣秀吉の死
慶長４年（1599）閏３月３日　五大老の一人、前田利家の死
慶長５年（1600）６月18日　徳川家康、会津の上杉景勝征伐
伏見⇒関⇒四日市⇒佐久島⇒江戸
７月17日　毛利輝元、宇喜多秀家、長束正家、
増田長盛、前田玄以らが家康弾劾状
を発し、兵を集める（西軍）
７月21日　徳川家康江戸を出発
７月25日　西軍、伏見城攻撃
８月１日　伏見城落城

伊勢の状況

東軍　富田知信（津城）、分部光嘉（伊勢上野）、古田重勝（松阪）、福島正頼（長島）、稲葉道通（岩出）、九鬼守隆（鳥羽）

西軍　氏家行広（桑名）、九鬼嘉隆（鳥羽）、堀内氏善（新宮）

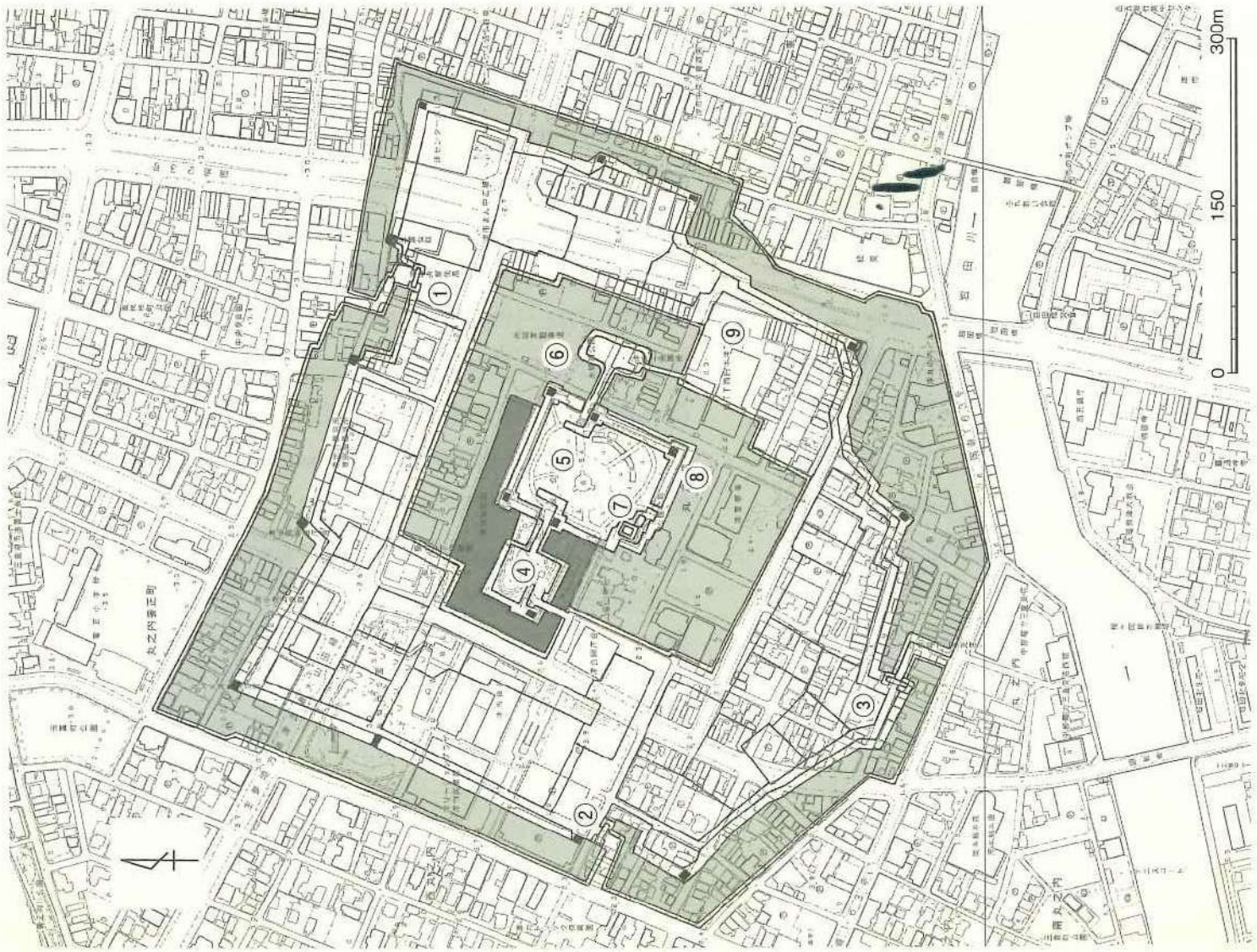
津城での戦い

８月18日　西軍長束正家に軍勢をつけ、安濃津、松坂、岩出の三城を受け取らせようとしたが、富田（安濃津）、古田（松坂）、稲葉（岩出）が船にて帰国して籠城。（①）
長束正家、安国寺恵瓊は、「椋本」に陣取るが、一時、「関地蔵」まで撤退し、吉川広家と合流して津城を攻めようとする。（②）

８月22日　鍋島勝茂、「浜手」から津城を攻撃開始
城兵とともに戦おうとする野武士数百人とともに城に潜入、「二ノ丸」を占領。城方は「本丸」に。（③）

８月25日　西軍長束正家が城方に和議を持ちかけ、富田知信は降伏。（③）

８月24日、25日　毛利勢が城方182級の首を取った。（④）
吉川広家配下では75人が戦死、227人が負傷。（⑤）



津城跡概要図（三重県教育委員会『三重の近世城郭』1984年を元に一部改変）
『出典：平成18年度デジタルオルソフォト（三重県自治会館組合）』この地図は三重県自治会館組合のデジタル地図を使用しています。

津城跡（熊崎司「津城」
『三重の山城ベスト50を歩く』
サンライズ出版2012）

松坂城、桑名野代での戦い

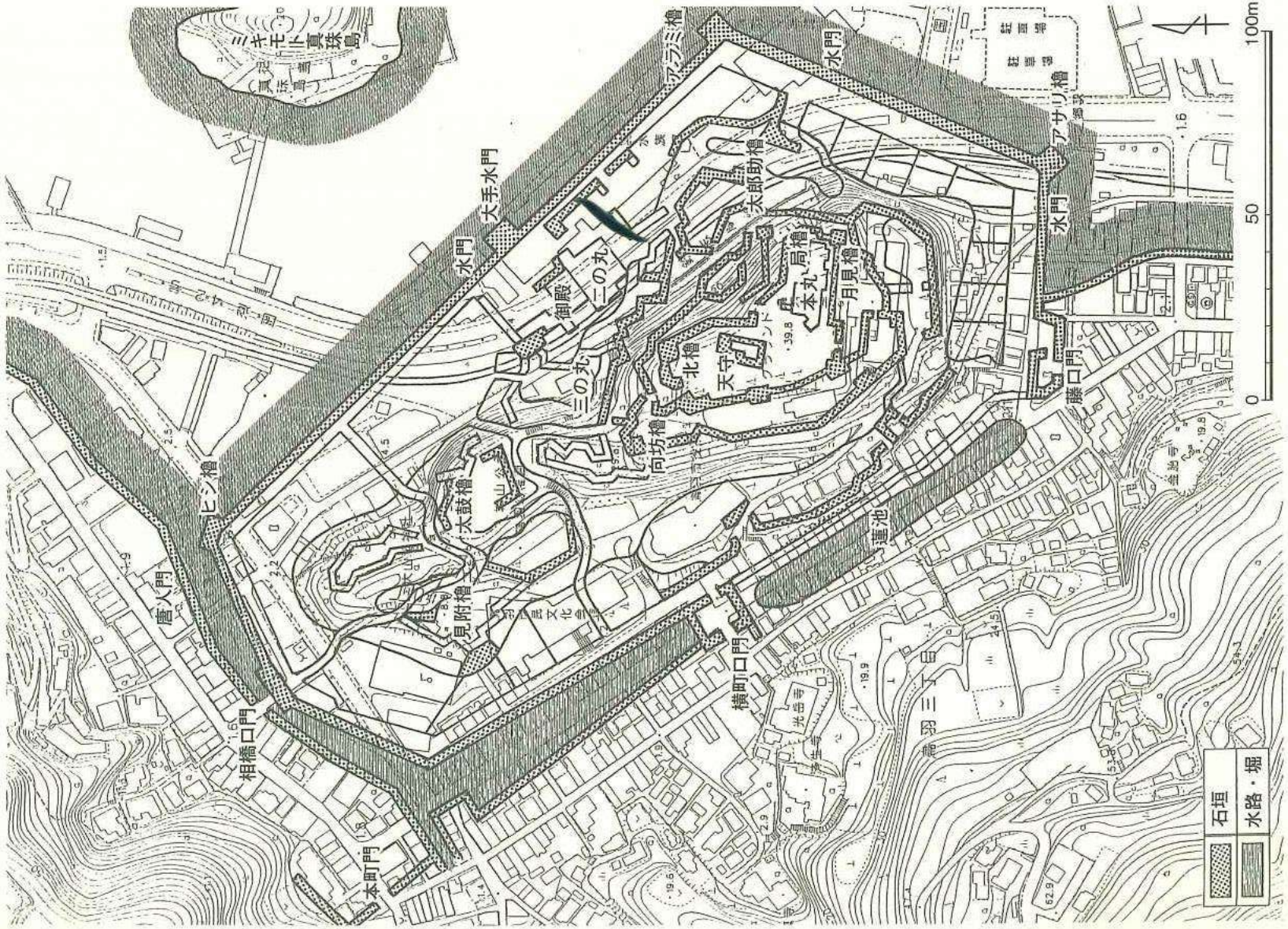
その後　鍋島勝茂は松坂城攻撃。古田重勝は降参。
松坂落城後　鍋島勝茂は野代（桑名市）に陣。
９月12日　長島城の福島正頼が鍋島勝茂を攻撃。
９月14日　鍋島勝茂、家臣を関ヶ原方面に派遣。
９月15日　鍋島勝茂、関ヶ原の戦いの状況を知り、桑名城に入る
　　千草、加太、奈良経由で大坂に戻る。
（以上③）

松坂城跡概要図（作図：木野本和之）

松坂城跡（木野本和之「松坂城」『三重の山城ベスト50を歩く』サンライズ出版2012）

鳥羽での戦い

慶長５年７月　九鬼守隆は家康とともに会津征伐
　　九鬼嘉隆（守隆の父）西軍方につき、堀内氏善とともに鳥羽城を占領。
　その後　渥美半島を攻撃
　　※毛利水軍も伊勢湾へ
　８月　九鬼守隆、三河吉田から船で志摩へ。安乗、国府などから鳥羽を攻撃
９月15日　九鬼嘉隆、鳥羽城から答志島和具に。
10月12日　九鬼嘉隆切腹



鳥羽城概要図（『県指定史跡鳥羽城跡保存管理計画書』より）

鳥羽城跡（豊田祥三「松坂城」『三重の山城ベスト50を歩く』サンライズ出版2012）

神宮周辺での戦い

山田周辺中島の北勝蔵と二俣の来田弥七郎が戦う。
北勝蔵は九鬼嘉隆と親交。

９月１日　稲葉道通（岩出城主）、九鬼嘉隆方の二見攻撃。
　　北勝蔵、九鬼主殿助（守隆の弟）が中島で稲葉と戦う。
　　九鬼嘉隆、堀内氏善らが救援、稲葉は撤退。

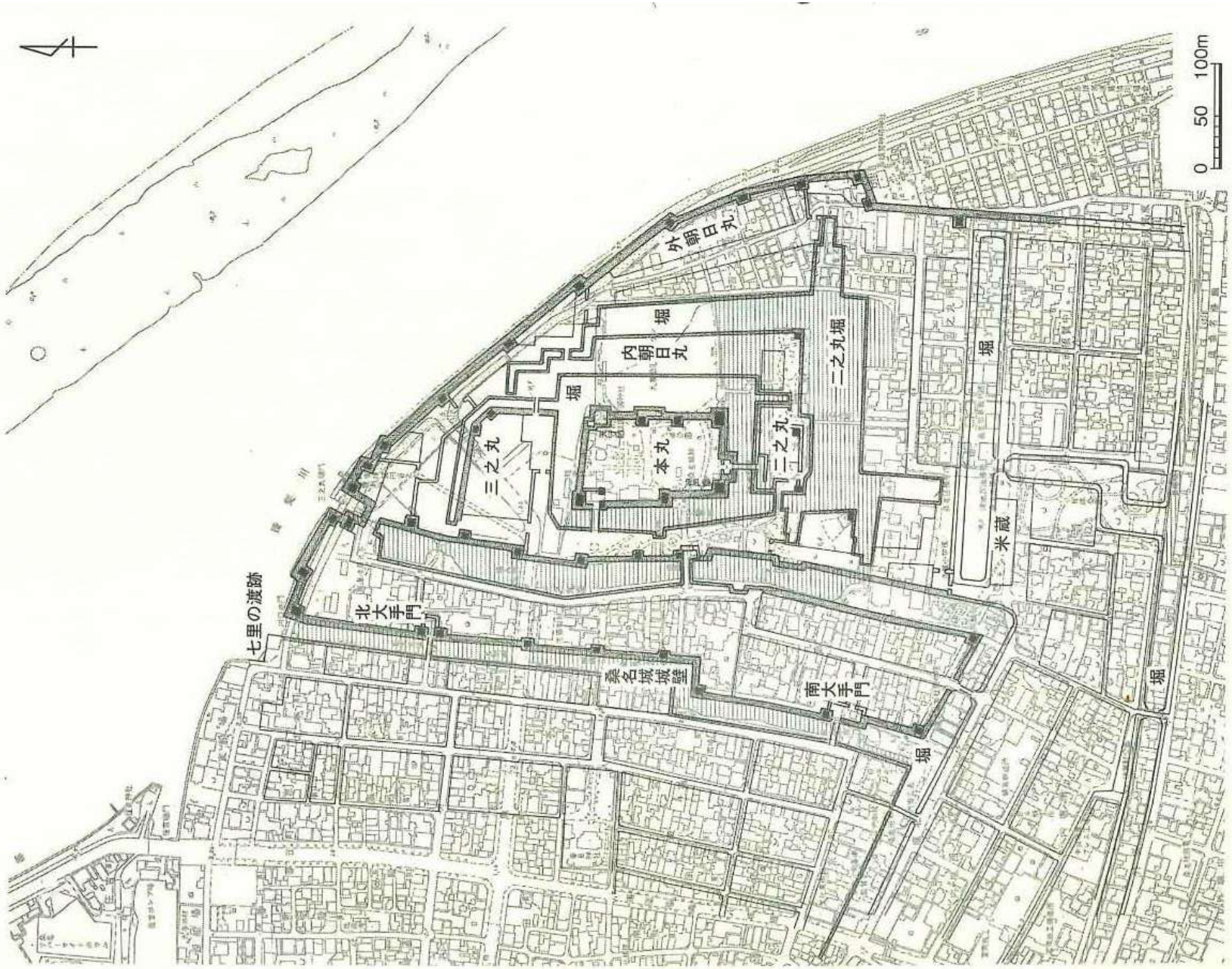
９月16日　北一族、熊野に脱出。

（以上⑥）

「昭和13年撮影航空写真」（『三重県史研究』第34号　三重県2019）

桑名での戦い

氏家行広（桑名城主）、東軍の福島正頼（長島城主）と合戦
関ヶ原合戦後　山岡道阿弥、九鬼守隆、池田長幸、寺沢正成らが
桑名城を攻撃。氏家行広は降伏。



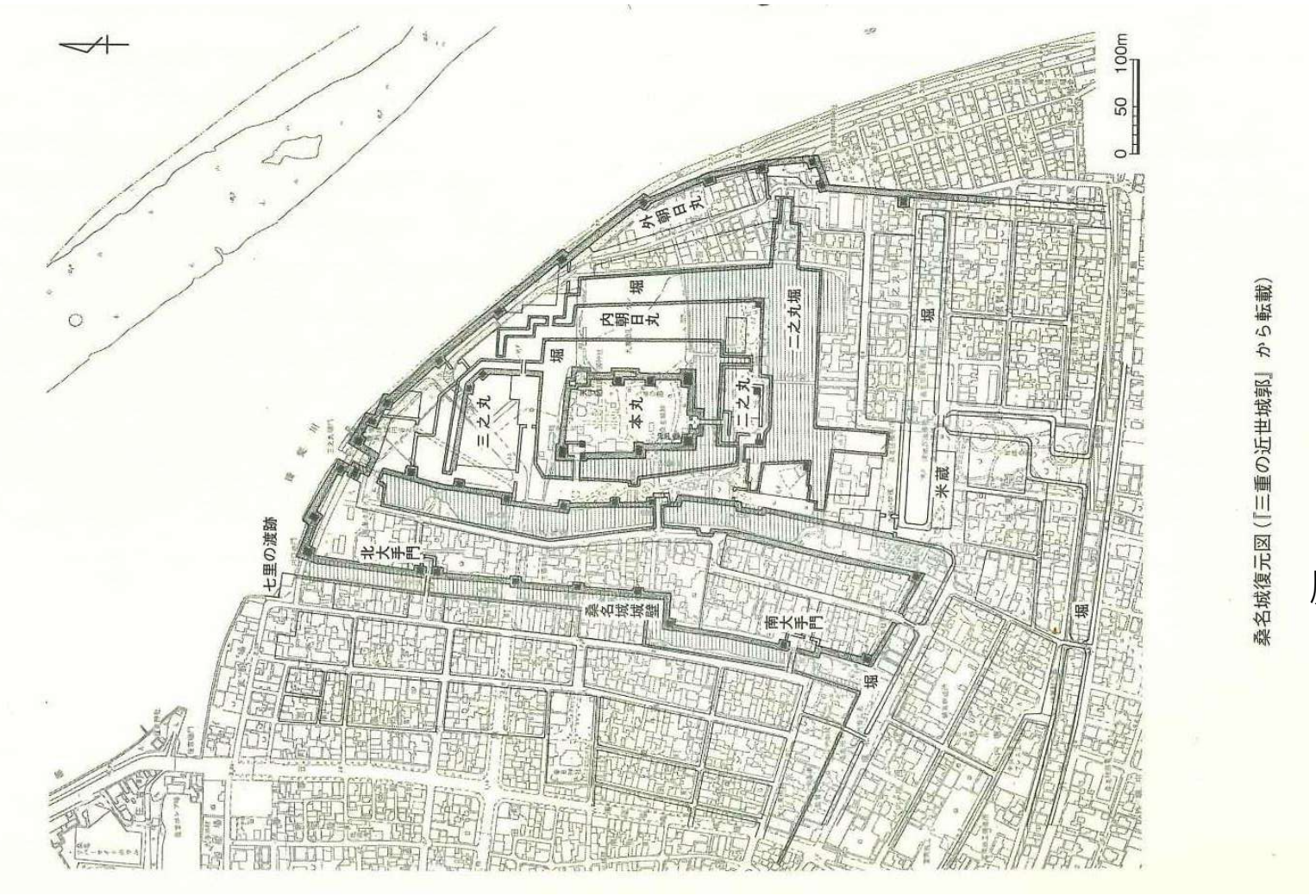
桑名城復元図（『三重の近世城郭』から転載）

桑名城跡（石神教親「桑名城」『三重の山城ベスト50を歩く』サンライズ出版2012）

表1-33　関ヶ原の戦いによる領主の変動

国名	城地	関ヶ原の戦い時の領主と石高	関ヶ原の戦い後の領主と石高
伊勢	長島	福島正頼　1万石 （大和国松山3万石へ）	菅沼定仍　2万石 （上野国阿保1万石より）
	桑名	氏家行広　2万5000石 （没収）	本多忠勝　10万石 （上総国大多喜10万石より）
	菰野		上方雄氏　1万2000石 （新封）
	神戸	滝川雄利　2万石 （没収）	一柳直盛　5万石 （尾張国黒田3万5000石より）
	亀山	岡本良勝　2万3000石 （没収）	関一政　3万石 （美濃国多良3万石より）
	林	織田信重　1万石	織田信重　1万石
	上野	分部光嘉　1万石 （加増）	分部光嘉　2万石
	津（安濃津）	富田知信　5万石 （加増）	富田知信　7万石
	雲出	蒔田広定　1万石 （没収）	
	井生	松浦宗清　1万石 （没収）	
	八知	山崎定勝　1万石 （没収）	
	松坂	古田重勝　3万5000石 （加増）	古田重勝　5万5000石
	岩出	稲葉道通　2万5000石 （加増）	稲葉道通　4万5000石
伊賀	上野	筒井定次　20万石	筒井定次　20万石
志摩	鳥羽	九鬼守隆　3万石 （加増）	九鬼守隆　5万5000石
紀伊	（新宮）	堀内氏善　2万7000石 （没収）	（和歌山）浅野幸長　37万6500石 （甲斐国府中25万石より）

・『三重県史』資料編 近世1 付表2より作成。
・関ヶ原の戦い時の領主には戦後の処分を（　）内に示し、戦後の領主には以前の領地・石高を（　）内に示した。
・三重県域に含まれる紀伊国には城地がないので、地名に（　）を付した。

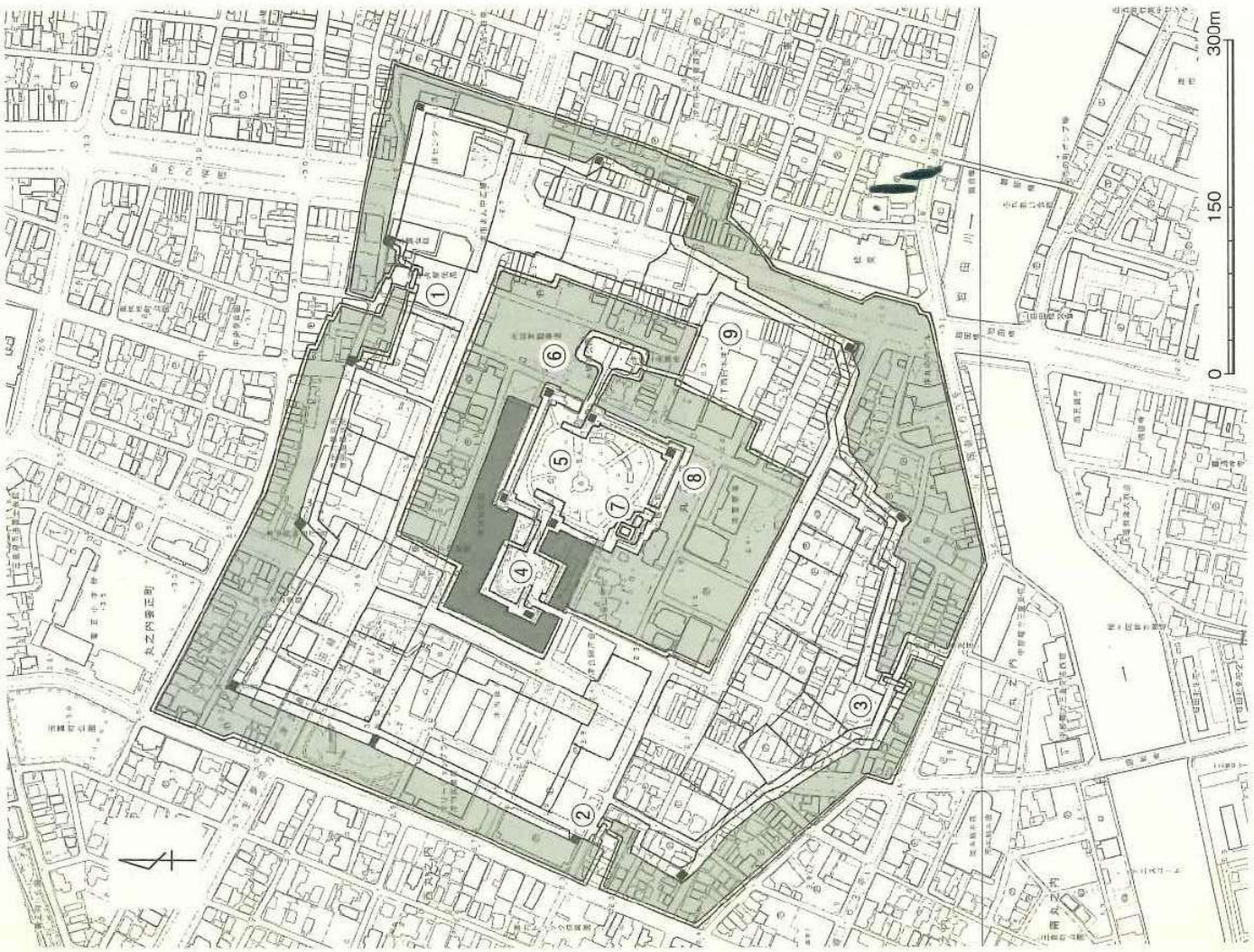


桑名城復元図（『三重の近世城郭』から転載）

慶長六年（1601）本多忠勝入部
・桑名城の修築
・天守（元禄十四年（1701）まで残存）
・慶長六年正月、東海道宿駅整備

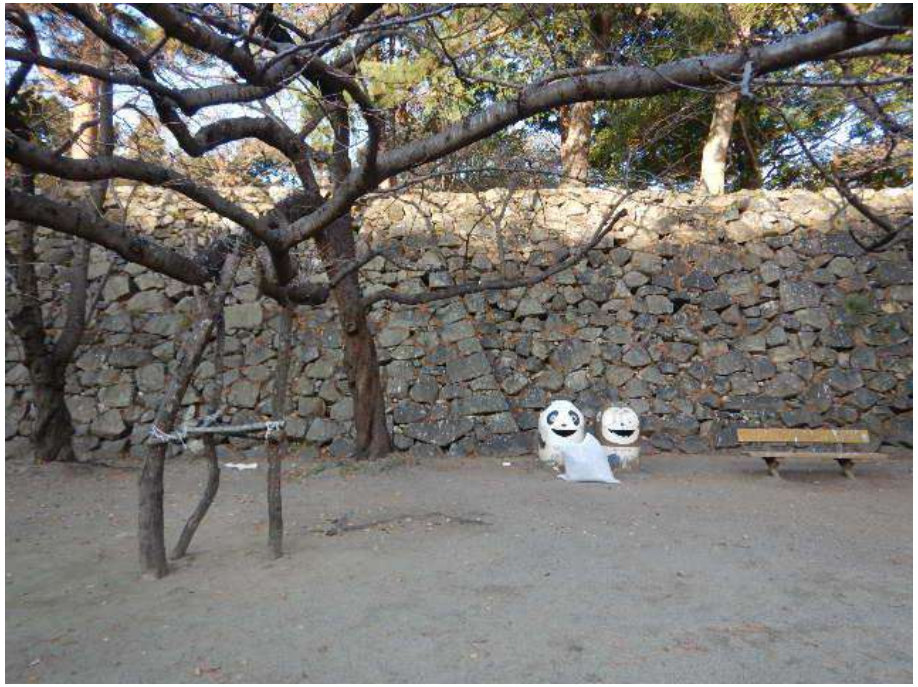
桑名城跡（石神教親「桑名城」
『三重の山城ベスト50を歩く』
サンライズ出版2012）

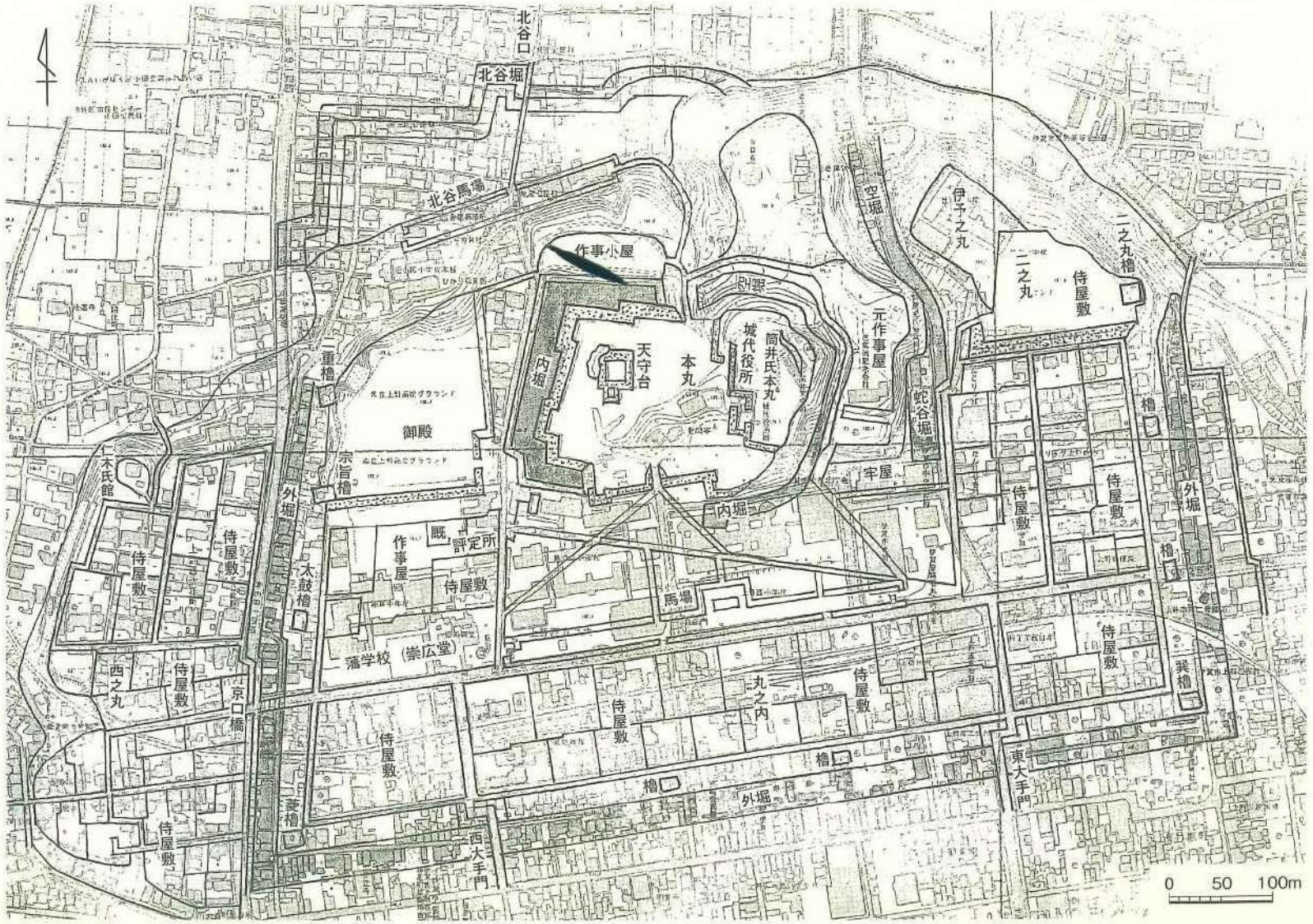
慶長十三年（1608）藤堂高虎入部
・津城の拡張
・隅櫓３棟と三重の天守（寛文二年（1662）まで残存）
・堀幅80ｍ



津城跡概要図（三重県教育委員会『三重の近世城郭』1984年を元に一部改変）
『出典：平成18年度デジタルオルソフォト（三重県自治会館組合）』この地図は三重県自治会館組合のデジタル地図を使用しています。

津城跡（熊崎司「津城」
『三重の山城ベスト50を歩く』
サンライズ出版2012）





伊賀上野城概要図（作図：福井健二）

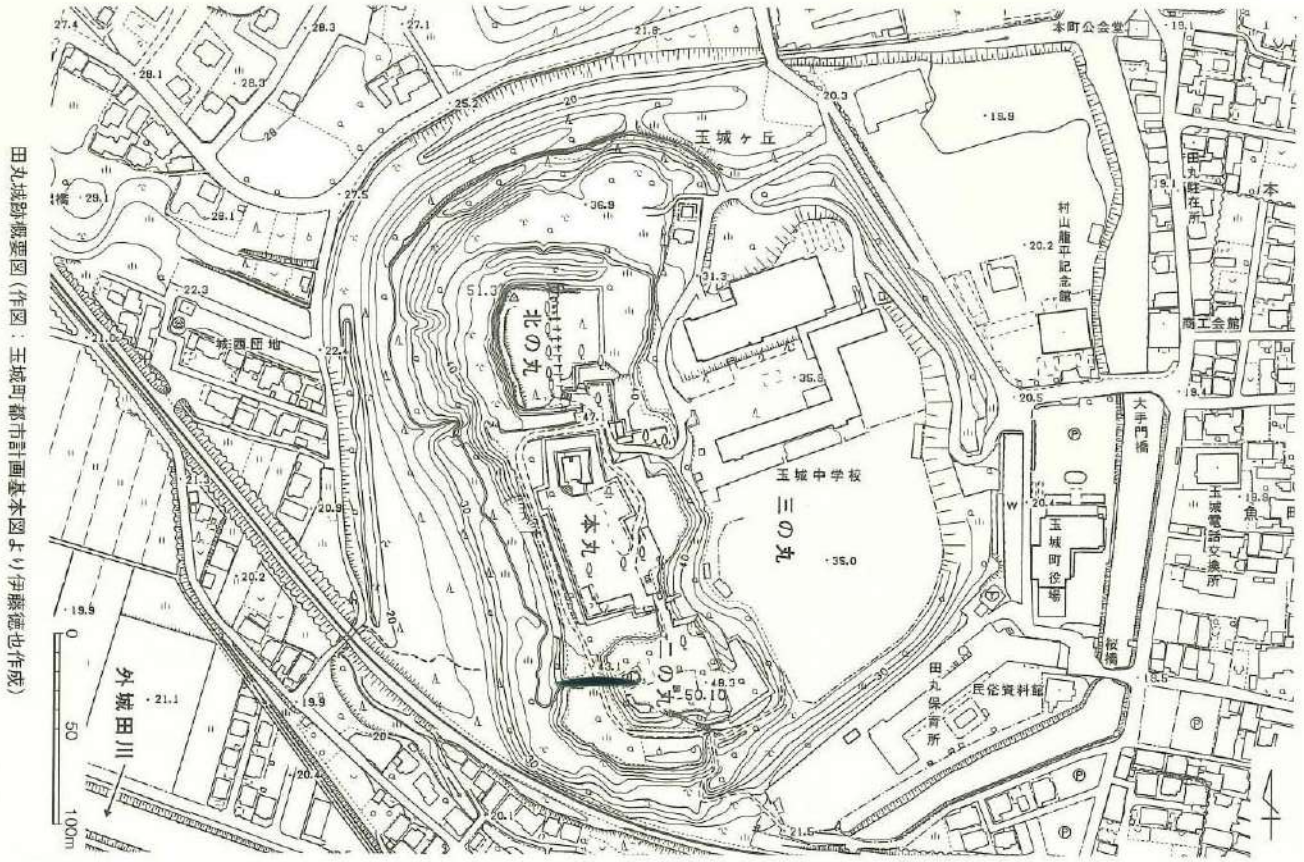
慶長十三年（1608）藤堂高虎入部
慶長十六年（1612）上野城改修
・天守台の移転（慶長十七年倒壊）
・本丸を西に拡幅？高石垣の構築
・城下町を小田から台地上、大手を南

津城跡（福井健二「伊賀上野城」『三重の山城ベスト50を歩く』サンライズ出版2012）

筒井天守跡

142

「昭和13年撮影航空写真」
（『三重県史研究』第34号　三重県2019）

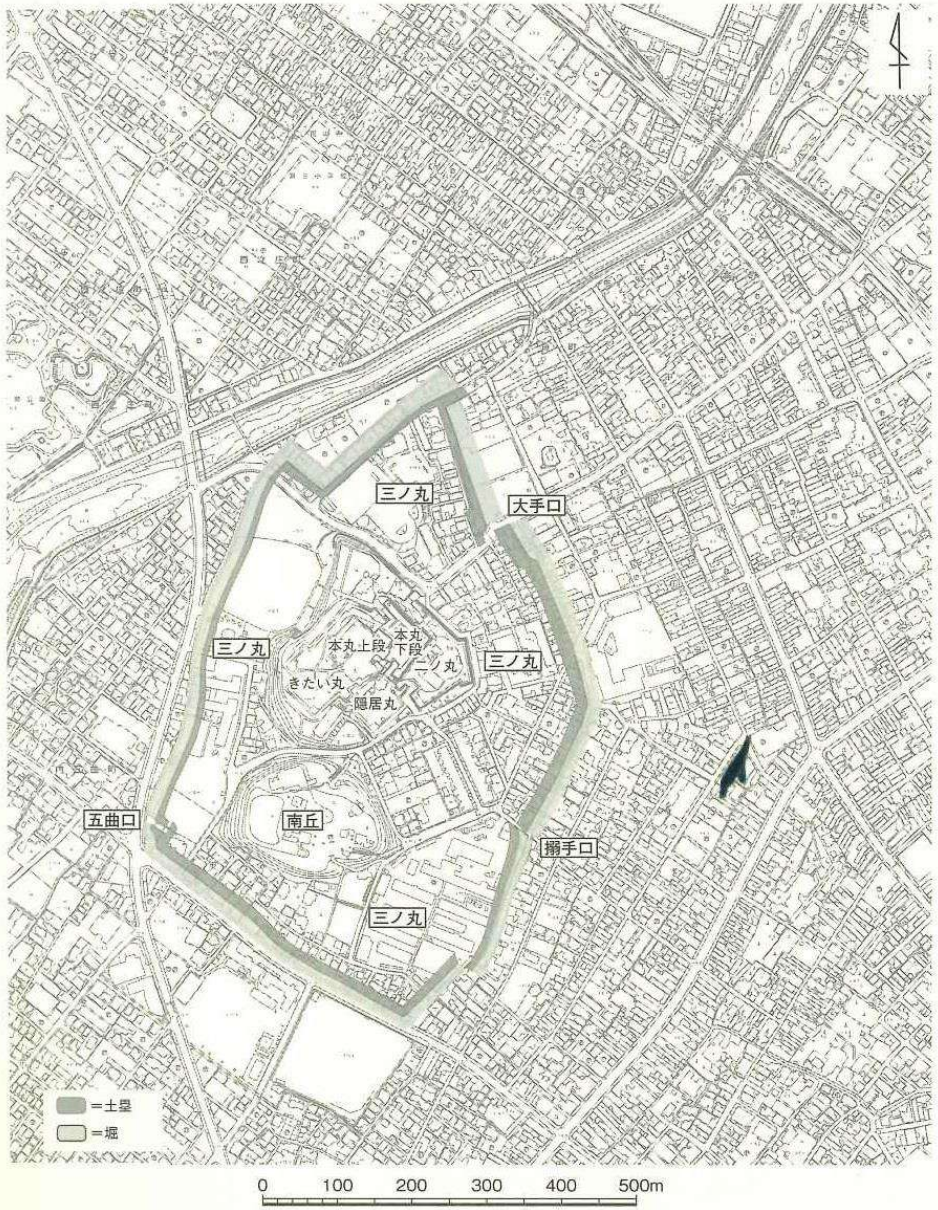


田丸城跡（伊藤徳也「伊賀上野城」『三重の山城ベスト50を歩く』サンライズ出版2012）

慶長五年（1600）稲葉道通が入部
元和２年（1616）藤堂藩領
元和５年（1619）和歌山藩領

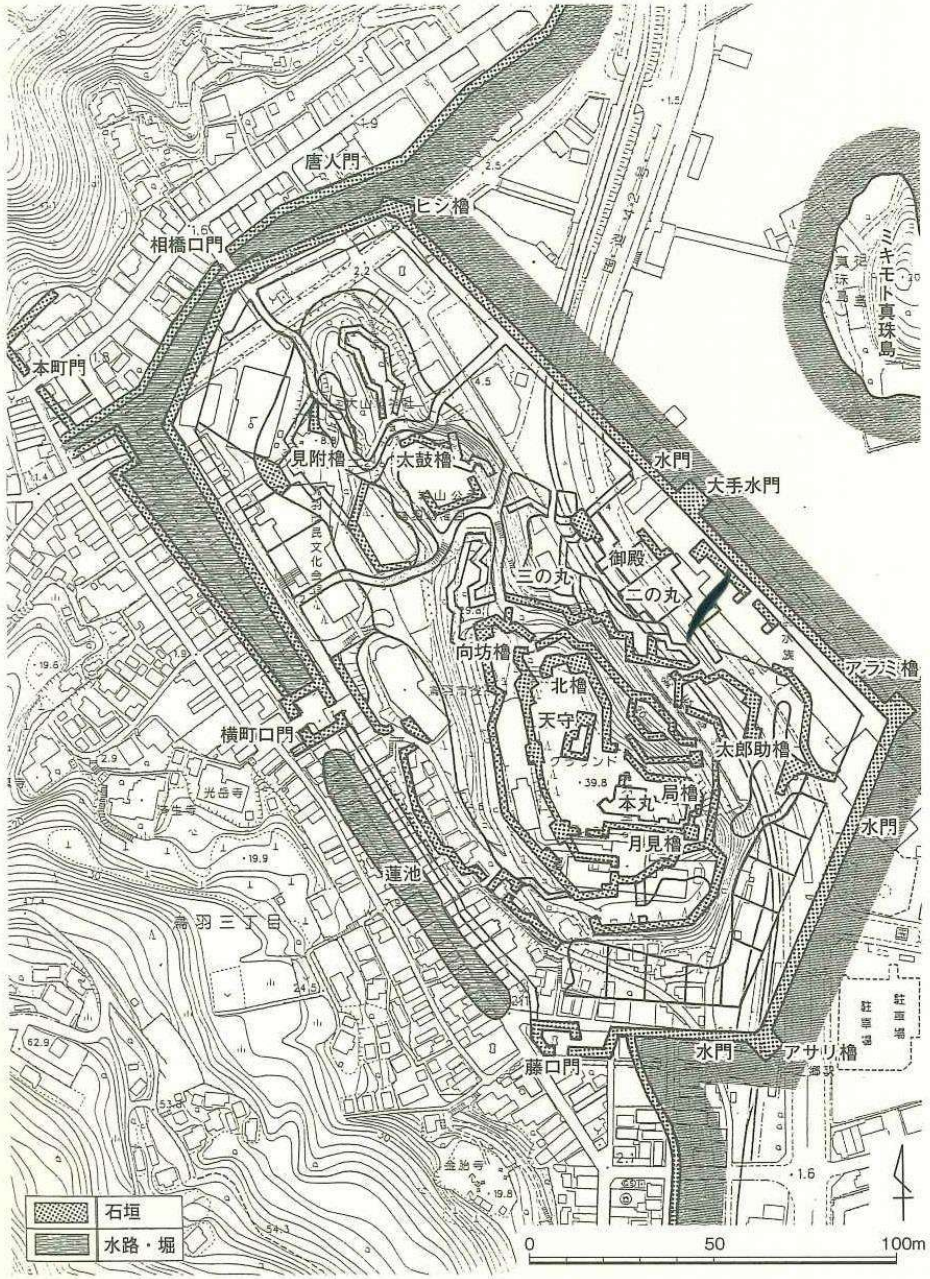
三葵一株巴 浪形文軒平瓦
左巻き三つ巴文軒丸瓦

「五瓜に三つ巴」紋
紀州藩家老・久野氏の家紋）
五瓜に三つ巴紋 軒丸瓦
（久野氏の家紋瓦）
田丸５万石は紀州藩55万5千
家老・久野丹波守宗成が田丸城
は８代250年間、代々田丸には
治維新を迎えた。

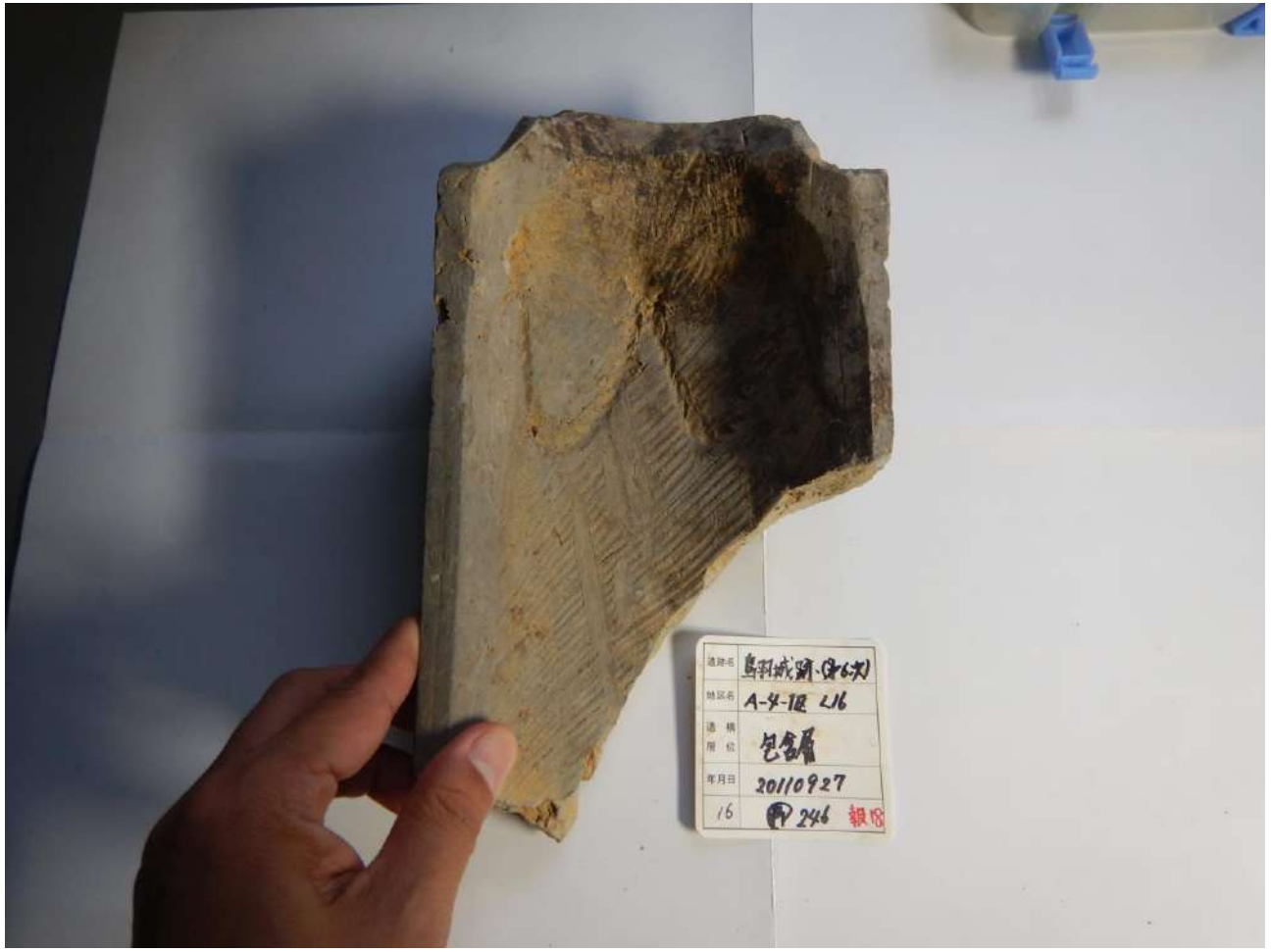


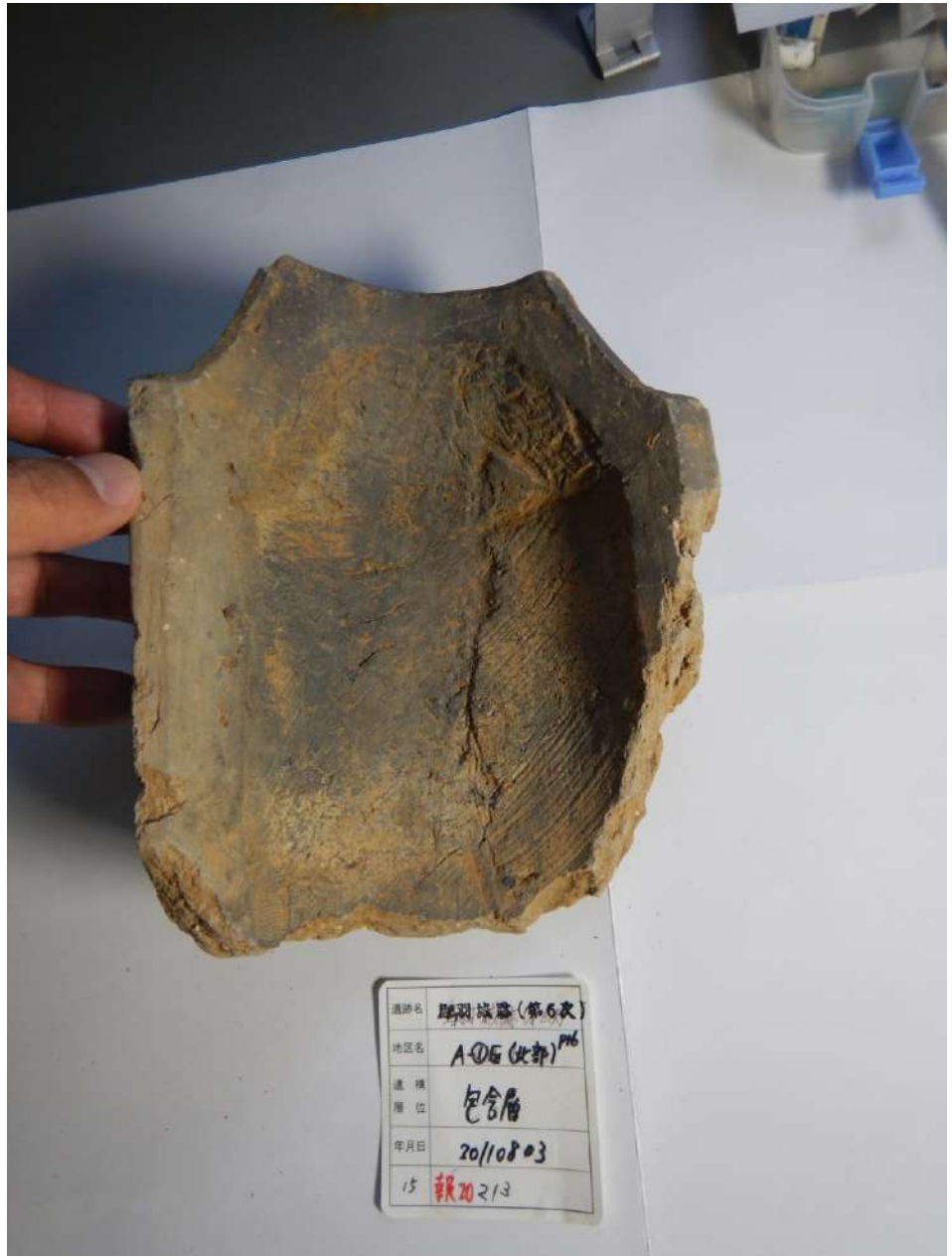
松坂城跡概要図（作図：木野本和之）

0
5
10
15



鳥羽城概要図（『県指定史跡鳥羽城跡保存管理計画書』より）


遺跡名
地区名
遺構
層位
年月日
20110927
16


遺跡名
地区名
遺構
層位
年月日
20110803
15

まとめ

戦い前の三重県は、東軍、西軍それぞれに与する大名がいた
関ヶ原の戦直前に伊勢国で合戦があった。

津城⇒長束正家、安国寺恵瓊、鍋島勝茂らが攻撃、激戦となる。
「椋本」、「関地蔵」は西軍基地となる。富田知信降伏。
松坂城⇒鍋島勝茂が攻撃、古田重勝は降参。
鳥羽城⇒九鬼嘉隆（西軍）が占領、息子守隆（東軍）と別れる。
桑名城⇒鍋島勝茂は郊外の野代に陣、9月15日も当地で迎える。
伊勢⇒中島周辺でも戦いがあった。

まとめ

戦い後、多くの城は改修

津城、上野城⇒藤堂高虎による改修、石垣などにも痕跡、
桑名城⇒本多忠勝による改修、今後の課題。
田丸城⇒岩出城を廃城として移転。
松坂城、鳥羽城⇒戦いのとき完成直後もしくは工事中。

※現在城に残る石垣や発掘調査成果で、改修の時期、改修前の様子が少しずつ解明されてきている。

①「有吉立行・松井康之連署状」『中川家文書』(『亀山市史』
②「吉川広家自筆覚書案」『大日本古文書』家わけ第9　吉川家文書二(『亀山市史』)
③「勝茂公譜考補」『佐賀県近世資料』第1編第2巻(『三重県史』通史編　近世1(三重県2017)
④「頸注文」『大日本古文書』家わけ第8　毛利家文書之一
⑤『大日本古文書』家わけ第9　吉川家文書之一
⑥「慶長五年九月一日中島合戦」『神堺合戦類聚』(神宮文庫蔵)

※文中で特に断りがない記述は、『三重県史』通史編　近世1(三重県2017)によります。